

# 宇都宮文化財マップ

— 奥州道中と伝統文化の里 —



関白獅子舞（県指定無形民俗文化財）

宇都宮市教育委員会

## 羽黒山神社本殿 A・2



(拝殿)

農業と関りの深い宇迦之魂命を祀る羽黒山神社は、江戸時代には近郷十八郷の総鎮守であり、また神仏混淆の修験道場の名ごりをとどめています。創建については諸説ありますが、康平年間（1058～1065）に、藤原宗円が宇都宮城の築城に際し、祈禱修法中に出羽三山との関連を意識し勸請されたものと伝えられています。本殿は拝殿の奥にあり、文政13（1830）年の造営で、「力持ち」をはじめとした精巧な社の彫刻は神山政五郎の作です。 [昭和51年9月22日 市指定]

## 羽黒山神社夫婦杉 A・2



推定樹齢450年、樹高30m、目通り周囲4.5m。慶安年間（1648～1652）に宇都宮城主奥平忠昌が出羽の羽黒山の分霊を祀ったおり、本殿が修復されました。この際に参道の改修と併せ、杉が植栽されたものと推測されます。まっすぐに伸びた2本の幹が根本で1本となるこの杉は、神社の御神木として、またその名前から縁結びの木として人々の信仰を集めています。 [平成3年9月20日 市指定]

## 東芦沼(高麗)神社大杉 ■ C・3



推定樹齢450年の大木で、高麗神社境内にある三本の杉の木は、神社の御神木として人々に崇われています。植栽されたものとしては稀な大木で、東の杉がもっとも大きく、目通り周囲5m、樹高30.7m、枝張は東西17.7m、南北14.9m、推定樹齢450年になります。中央の杉は、目通り周囲2.8m、西の杉は目通り周囲4.2mあります。

[昭和51年9月22日 市指定]

## 清泉寺薬師堂・山門 ■ B・2



薬師堂は、堂内に安置している薬師如来像の制作年代が宝暦2（1752）年と墨書されていることから、ほぼ同時期に建立されたものと思われます。建物の構造は軒が二重垂木、組物として平三つ斗組になっており、柱は檜の丸柱で、正面向拝の虹梁には薬壺を持った竜の彫刻があり、天井は格天井づくりになっています。

山門は、清泉寺入口にある檜材の四脚門です。四方の柱上部に獅子頭があり、組物としては薬師堂と同じ枅組構造となっていて、虹梁中央部に通称「力持ちの像」があります。

[平成5年10月1日 市指定]